

授業科目名	発展体育サッカー (春)
科目番号	2313283
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	小井土 正亮
授業概要	サッカーというスポーツの特性 (足でボールを扱う不安定さ、ミスが起きる頻度の高さ、状況の変化の連続など) を理解しつつ、よりゲームを楽しむために必要な技術・戦術の習得を目指す。
備考	実務経験教員 対面 男女別要素 (接触) 男女別要素 (特別ルール・ペア/チーム分け) G 科目 短期留学生在が受講を希望する際は、初回授業の 3 日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得ること また原則先着順で 2~3 名までとします。
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 1) サッカーの特性を理解する。 2) 仲間と協力して、ゲームを楽しむ。 3) サッカーを通して、心身を健康に保つ方法を学び実践する。
授業計画	第 1 週授業ガイダンス 第 2 週パス&コントロール 1 2 人組 第 3 週パス&コントロール 2 3 人組 第 4 週ボールポゼッション (サポート、スキル) 第 5 週シュート (相手との駆け引き) 第 6 週フットサル 第 7 週ゲーム (グループ、チーム戦術) 第 8 週ゲーム (リーグ戦) 第 9 週ゲーム (リーグ戦) 第 10 週ゲーム (順位決定戦)
履修条件	
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する 単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者について行う
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うことを欠かさずに、授業での学びを次週までに復習する
教材・参考文献・配付資料等	

オフィスアワー等（連絡先含む）	<p>体育科学系棟 B206</p> <p>水曜 10:00-11:00</p> <p>koido.masaaki.gu@u.tsukuba.ac.jp</p> <p>水曜日 10 時~11 時 koido.masaaki.gu at u.tsukuba.ac.jp</p>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>人工芝のサッカー場を使用するため、シューズ (凸凹があるものが望ましい) を別に用意すること。</p> <p>レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育シューティングスポーツ (春)
科目番号	2314283
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4; 春 C 集中
担当教員	嵯峨 寿
授業概要	アーチェリー、弓道の文化的、精神的側面を理解すると共に、自己ならびに他者への理解を深めます。
備考	対面 G 科目 詳細後日周知 短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の 7 日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	(1) お互いが安心して授業に臨めるよう、用具の取り扱いや自らの行動と生活に十分注意することができる。 (2) スポーツにおける弓矢の安全な使用方法を修得し、身体を用いてそれを表現できるようになる。 (3) チーム間の対戦ゲームにおいて、仲間と相手の存在を尊重し、協力と感謝の気持ちを表す方法を修得できる。 (4) セルフジャッジに臨んでは、所定の規則に基づき、正確な判断・採点をすることができる。 (5) ルールを色々と改変しながら、独自の競技方法や大会運営の仕方など色々と考案できる。
授業計画	春学期は月曜日 4 時限に行い、秋学期分は春学期内に集中授業 (9/12.19.26 の 3 日間を予定) で行う「春学期完結型」の授業です。 前半は週一のペースで洋弓 (アーチェリー) を、後半 (11 週以降) は集中授業形式で和弓を行う予定です。 いずれも初心者を対象に想定した内容、進度ですので、経験者は未経験者にチャンスを譲って下さる心遣いを望みます。 第 1 週生命の安全、安心した活動に必要となる、この授業で厳守すべき約束事を理解する 第 2 週合理的かつ楽なスタンス、自分に合った立ち方を見つける 第 3 週弦をしっかりと引くための基本的技術を学び、留意点を知る 第 4 週的に向かってしっかりと弓を押せる握り方 (グリップ) を体得する 第 5 週「アンカーリング」の重要性を理解し、その体得を目指す 第 6 週競技形式の練習をしながら、採点方法を知る 第 7 週照準器の使用方法を学び、使いこなせるようにする 第 8 週班対抗 (3 人一組) によるトーナメント戦を行う 第 9 週色々なゲームを考案し、実際に運営してみる 第 10 週アーチェリーの到達度を確認する実技検定を行う (10m の距離から 10 射) 運動が苦手、下手だと感ずる人には、高校までの体育にはない新しい種目にぜひ挑戦して下さい。初心者どうしお互いに教え合い、励まし合いながら学びます。 弓矢を用いた競技を春秋を通じて体験しながら、スポーツにみられる文化的特性が理解できます。 天候や授業の進行度合い、施設の使用状況などにより、場所や授業内容が変更になる場合があります。
履修条件	殺傷力のある道具を用いるため、自己管理と他者への配慮などを十分に行えること。

成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解、態度・意欲の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察とともに、授業で指示された課題について予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	授業にて指定・紹介する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	月曜日 16 時から 18 時 随時メールにてアポを取った上で来室ください 随時メールにてアポを取った上で来室ください 体育科学系棟 B504 研究室 029-853-2629 saga.hitoshi.fu at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください。 弓、矢、弦、的などの消耗品の購入代として 1,000 円徴収します。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	なし
キーワード	スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育ソフトボール(春)
科目番号	2321283
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	木内 敦詞
授業概要	ソフトボールにおける安心安全と技能上達を、共生協働の実践を通して目指す。さらに、これらの活動を自己成長の機会として捉える視点を養う。授業は、受講者の技能や体力の多様性に応じて、使用球やルールを柔軟に調整して編成する。評価は技能や体力の優劣によって行わない。
備考	対面 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	(1) 自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (2) 誰もが安心して試行錯誤し互恵的に技能上達する班/チーム/クラスになる。 (3) 自身の心身の状態を踏まえて授業出席の可否を判断できる。 (4) 他者の多様性を踏まえた関わり方を説明できる。 (5) 活動の安全上のリスクを指摘・言語化できる。 (6) 授業活動を教育的視点から振り返り、改善点を述べられる。
授業計画	第1週 授業設計の理解、班編成、アイスブレイク、捕球・送球・打球の基本 第2週 捕送打のドリルとルール理解ミニゲームの基礎 第3週 捕送打のドリルとルール理解ミニゲームの応用 第4週 捕送打のドリルとルール理解ミニゲームの発展 第5週 塁間転送ドリル基礎と制約主導型ゲームの基礎 第6週 塁間転送ドリル基礎と制約主導型ゲームの応用 第7週 塁間転送ドリル基礎と制約主導型ゲームの発展 第8週 内外野の連携ノックと公式戦の基礎 第9週 内外野の連携ノックと公式戦の応用 第10週 内外野の連携ノックと公式戦の発展
履修条件	運動に適したシューズ・スポーツウェア着用のこと。熱中症予防の観点から、帽子着用と飲み物持参を強く推奨する。安全管理上、長い爪での受講は認めない。
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%。技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。本授業では技能点を活動点として評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回授業の翌日 15 時まで、「授業当日のコンディション」と「授業内活動の省察」を manaba にてレポート提出のこと。また、ベースボール型競技(ソフトボールおよび野球)のルールや練習に関する動画視聴課題にも取り組むこと。
教材・参考文献・配付資料等	初歩的ルール理解の及ばぬ受講者は、以下に示す 2 冊目の図書の内容を理解の上、初回授業に出席されたい。 1. 川村 卓, 投げる捕る打つ野球解析図鑑、イースト・プレス ISBN-13: 9784781621340 2. 中野良一、木谷友亮, これさえ読めばだいたいわかる: 野球のルール超初級編、ベースボールマガジン社 ISBN-13: 8784583115382

オフィスアワー等（連絡先含む）	特に定めないが、事前にメールで連絡のこと。kiuchi.atsushi.fw@u.tsukuba.ac.jp kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け) 筑波大学」を参照し、適切に活用すること。授業実施場所は主に野球場とするが、北東に隣接の多目的グラウンドも併用する。雨天時の室内練習場での授業に備えて、外履とは別の館内シューズを準備のこと。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	TA 配置あり (1 人)
キーワード	自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク, 安心安全, 共生/協働/互惠, 上達/成長

授業科目名	発展体育卓球 (春)
科目番号	2322283
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	安藤 真太郎
授業概要	卓球競技の技術の本質から学ぶとともに、上達過程の中でスポーツ活動に関する知識を深める。また自己のスポーツライフや、スポーツ文化についても実技を通して学習していく。
備考	実務経験教員 対面 男女別要素 (接触) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) 卓球の競技特性について理解し、運用できる。 (2) 仲間とコミュニケーションを取り、円滑に課題をクリアできる。 (3) 集団全体の動きを把握し、主体的に行動できる力を身に付ける。 (4) 対人競技を通して、相手や仲間のことを考え、スポーツマンシップについて学ぶ。 (5) 運動機会を得るための、簡単なスポーツレクリエーション等の企画、運営ができる。 (6) 自身の生活や健康を踏まえ、スポーツライフについて考える。
授業計画	元日本代表コーチ経験を有する教員が、その経験を踏まえ、実技を指導する。 第 1 週授業内容の説明、受講生の技術、運動能力レベル、スポーツ行動力のチェック 第 2 週卓球の競技的特性、フォアハンド導入 第 3 週打球技術の基本、飛来するボールに対する補足のしかた 第 4 週基本的なフォアハンドの技術チェック、ゲーム導入 第 5 週基本的なフォアハンドの応用、ミニゲーム 第 6 週フォアハンドとバックハンドの関連性 (1) グリップとラケット操作 第 7 週フォアハンドとバックハンドの関連性 (2) 姿勢の安定、ミニゲーム 第 8 週ゲーム性が高いスポーツへの馴化 (1) 第 9 週ゲーム性が高いスポーツへの馴化 (2)、ミニゲーム 第 10 週ボール認知時間の短縮、短時間内認知・判断が必要なスポーツの理解
履修条件	
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業で興味関心を持った内容について、自発的に学習を行う。

教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	ando.shintaro.fu at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>受講にはインドア用シューズは必携。服装はスポーツウェア。</p> <p>経験者の受講を妨げないが、本科目は初心者を重視した内容となっている。</p> <p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。</p> <p>レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育ダンス(春)
科目番号	2323283
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	岡子 美和
授業概要	多様なダンスに挑戦し、その動きを理解して技術の向上を目指す。さらに、個々の自己表現力と感性を磨き、生涯においてダンスを通して豊かな生活を送るための実践力を養う。
備考	対面 男女別要素(接触) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) 音楽合わせて連続した数種類のステップを踊ることができるようになる。 (2) パートナーやグループのメンバーとタイミング話合わせて踊ることができるようになる。 (3) 仲間と協力しながら、楽しく踊ることができるようになる。 (4) ダンスを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できるようになる。
授業計画	第1週オリエンテーション 身体ほぐし 第2週リズムダンス: 基本のステップ(サイドステップ, ボックスステップ, ウォーキングのステップ)の練習 第3週リズムダンス: 基本のステップ、キック、ターンなどの足を使ったステップの練習 第4週リズムダンス: 上半身の動きの練習、上半身の動きとステップと合わせて踊る練習、2人組で動きを合わせて踊る練習 第5週実技テスト1(リズムダンス) 第6週アイソレーションの練習(体の各部位のコントロールを学ぶ) ジャズダンス: 基本的な身体の操作方法の練習、ステップなど組み合わせて踊る練習 第7週ジャズダンス: 基本的な身体の操作方法の練習、ステップ・ターンの練習 第8週ジャズダンス: グループ作品の練習、オリジナルの振りや隊形を創作して踊る練習 第9週実技テスト2(ジャズダンス) 第10週阿波おどり: 女踊り、男踊りをそれぞれ練習、蓮を作り群舞の構成を工夫して踊る 実技テスト3(阿波おどり:群舞)

履修条件	
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	資料の配布やビデオ視聴を適宜行う。
オフィスアワー等（連絡先含む）	zushi.miwa.ga@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。</li> <li>・レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用すること。</li> </ul>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育トリム運動 (春)
科目番号	2330283
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	福田 崇
授業概要	本授業は体育を履修する上で心身のコンディショニングの理由から積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講している。受講希望者は事前に教員との面談を要する。授業内容は、受講生の心身のコンディションを考慮して体力トレーニング、フライングディスク、フィールドゴルフ、球技などから受講生全員が楽しむことができる種目を決定する。
備考	実務経験教員 対面 G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する  (1) 自己のハンディキャップを理解して、できる運動を実践する (2) 他者のハンディキャップを理解して、協働して運動を実践する (3) 身体活動やスポーツを通して自己の生活が豊かになることを理解する (4) 他者とのコミュニケーションを図り、身体活動を楽しむ
授業計画	授業内容は受講生の心身のコンディションを考慮して変更することがある。また、天候や気候などによって変更もありうる。 第 1 週ガイダンス 第 2 週スポーツとコンディショニング 第 3 週フライングディスクの基本知識 第 4 週屋外体力測定 第 5 週バックハンドスロー 正確なコントロール 第 6 週バックハンドスロー 距離をのばす 第 7 週フライングディスクゲーム 1(個人戦) 第 8 週フライングディスクゲーム 2(リーグ戦) 第 9 週フライングディスクゲーム 3(リーグ戦) 第 10 週フライングディスクゲーム 3(トーナメント戦)
履修条件	本授業は体育を履修する上で心身のコンディションから積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講している。受講前に担当教員との面談を要する。
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	日常生活の中で歩くことを意識する。週に 2 回 15 分程度のウォーキングを行う。自身の健康について気づいた点をメモをして授業時に発表する。

教材・参考文献・配付資料等	特になし、必要に応じて、授業時に資料を配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	特に設定をしていません。メールで連絡をして下さい。 fukuda.takashi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	カナダ障害者バレーボールナショナルチーム・アスレティックセラピストや国立スポーツ科学センター・現トレーニング指導員の経験を生かした誰もが身体活動を楽しめる体育授業を目指す。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	TA 配置あり(1人)
キーワード	スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育バスケットボール(春)
科目番号	2334303
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	仲澤 翔大
授業概要	バスケットボールの個人戦術、グループ戦術を習得し、グループ戦術を中心にバスケットボールの特性を活かしたゲームをとおして、問題解決能力、協調性を養いながら、バスケットボールの構造を理解できるようになる。
備考	実務経験教員 対面 男女別要素(用具) 男女別要素(接触) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) バスケットボールの特性を理解し、ゲームを楽しめる。 (2) バスケットボールに関する基礎的知識と技術を習得し、実践できる。 (3) バスケットボールの基本的な技術、戦術を身につける。 (4) バスケットボールを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる
授業計画	バスケットボールにおける大学トップレベルのチームを指導する教員がその経験を活かして授業を実施する。 第1週オリエンテーション、導入 第2週ボールの扱い方の理解、基礎技術の理解 第3週個人戦術の習得(ゴール下シュート) 第4週個人戦術の習得(ジャンプシュート) 第5週個人戦術の習得(レイアップシュート) 第6週個人戦術の習得(1on1の駆け引き1) 第7週個人戦術の習得(1on1の駆け引き2) 第8週個人戦術を重視したゲーム(3x3 1) 第9週個人戦術を重視したゲーム(3x3 2) 第10週個人戦術を重視したゲーム(3x3 3)
履修条件	
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	連絡先:nakazawa.shota.fw@u.tsukuba.ac.jp

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>運動に適した服装とシューズを準備して、授業に臨むこと。          単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。          レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)</p>	<p>1名配置予定</p>
<p>キーワード</p>	<p>自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク</p>

授業科目名	発展体育フラッグフットボール(春)
科目番号	2341343
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春 AB 月 4; 夏季休業中 集中
担当教員	松元 剛
授業概要	日本フラッグフットボール協会公式規則に準じた大会への参加を目指し、チーム・マネージメントについて実践的に学修する。
備考	集中講義と併せて 1 単位とする 実務経験教員 対面 男女別要素 (特別ルール・ペア/チーム分け) G 科目 各チームの男女数が均等になるように男女混合チームを作ります。ゲームにおいては特別ルールを設定し、全員が積極的にゲームに関与できるよう工夫を行います。短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の 3 日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) フラッグフットボールの特性を理解し、チーム活動ができる。 (2) フラッグフットボールの公式ルールを理解し、ゲームができる。 (3) フラッグフットボールの基本的な攻撃戦術を理解し、チームの特性に応じてゲーム中に発揮できる。 (4) フラッグフットボールの基本的な守備戦術を理解し、チームの特性に応じてゲーム中に発揮できる。 (5) 仲間と協力しながら、楽しく安全にゲームを実施できる。
授業計画	日本学生代表や学生チームの指導経験を活かして授業を実施する。 日本フラッグフットボール協会公式規則に準じたフラッグフットボール大会への参加を目指し、チーム・マネージメントについて実践的に学習する。 第 1 週 授業概要説明とフラッグフットボールの理解 第 2 週 公式規則の確認と攻撃用作戦の立案 第 3 週 攻撃パス作戦の確認と修正 第 4 週 攻撃ラン作戦の確認と修正 第 5 週 攻撃フォーメーションの理解 ツインとスロットの違い 第 6 週 守備用作戦の確認 第 7 週 審判法の確認と模擬ゲーム 第 8 週 リーグ戦: ランオフenseからの攻撃 第 9 週 リーグ戦: パスオフenseからの攻撃 第 10 週 リーグ戦: ランパスオプションからの攻撃 春学期中の週末等にて、3 日間の集中授業を実施する。 日程は、1 時間目の授業内で受講生と相談の上、決定する。 場所は学内にて実施し、例えば、フラッグフットボールの大会に参加し、他チームとの交流を行う。
履修条件	

成績評価方法	1 技能 35% 2 知識・理解 30% 3 態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業での学びを manaba でレポートする。
教材・参考文献・配付資料等	日本フラグフットボール協会のサイト <a href="http://www.japanflag.org/">http://www.japanflag.org/</a> 1. 日本フラグフットボール協会, <a href="http://www.japanflag.org/">http://www.japanflag.org/</a>
オフィスアワー等（連絡先含む）	月曜 10:30~11:30 体育科学系 B 棟 B317 029-853-2680 / 体育科学系 B 棟 B317 029-853-2680 / 体育科学系 B 棟 B317 029-853-2680 matsumoto.tsuyosh.fn at u.tsukuba.ac.jp <a href="http://www.go-matsugen.jp/">http://www.go-matsugen.jp/</a>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	筑波大学 e ラーニング学習管理システム manaba を用いて、授業時の課題をレポートする。 授業中は、安全面を考慮に入れて行動すること。授業の予習・復習については、授業時の課題レポートを通して行うこと。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク